

所 管 事 務 調 査 報 告

○ケアタウン小平
「いっぶく荘」
1. 開設に至るまで
代表取締役の長谷氏は、隣接する小金井市桜町病院聖ヨハネホスピスで、1990年から2003年まで、ホスピスコーディネーターとして、ホスピスケアの計画などに関わりました。2万人以上の人と出会い、そして地域に根ざした普通の生活の中に、「ケアとい

社会文教常任委員会

○日 時 平成21年2月12日～13日
○調査先 小平市 ケアタウン小平「いっぶく荘」
東京都多摩市 多摩市役所
○テーマ ケアタウンについて
コミュニティセンターについて

う関係で結ばれた共同体（コミュニティ）をつくることを考えました。自らのブランドデザインをもとに2005年8月に「いっぶく荘」を開設しました。
2. 施設概要
賃貸フルルームの共同住宅で、そこに地域の人も利用できる診療所・訪問看護ステーション・デイサービスが併設されています。
入居者に年齢制限はなく、「ケア」が必要な時は、併設のクリニック、食事サービスなどの手助けを受けられ

ます。
現在は満室状態で、将来入居したい人などが、待機となっています。高齢者や障害を持つ人がそばで暮らし、その生活空間に、図書館や芝生の庭など、自然に子供たちが入り込む場所が組み込まれています。



「いっぶく荘」長谷氏から説明を受ける

○多摩市コミュニティセンター
1. 設置目的
市民の主体的活動によるコミュニティ形成の拠点施設として、市内10箇所をコミュニティエリアとし、7箇所を建設、現在8箇所目を計画しています。
2. 管理運営
地域住民のボランティアにより組織された運営協議会を「指定管理者」とし、自主運営しています。
市からは、各協議会へ、事業活動費として年間150万円が補助され、自主的に活動が行われています。
市長の「とことん市民の力を信じる」という強いリーダーシップのもと、市民が主体の運営にこだわり、市職員はあくまでも事務局それぞれに独自の事業を行っています。
会員の人脈を使って、著名人を招いた講演会の開催、コンサート、ゴルフ、映画会などの

活動、また、子供に地域の伝統行事の伝承をしたり、防犯防災のハザードマップの研究をしているセンターもあります。
少子高齢化が進み、協議会の高齢化や受け継いでいく人の不足は、日本中どこをみても同じ課題を抱えています。この解決の鍵は、「世代間の交流だ」というアドバイスがありました。



多摩市職員から説明を受ける